

第5次結城市総合計画実施計画策定及び行政評価シート

担当部署	部局名	保健福祉部		
	課名	健康増進センター		
	係名	健康増進係		
	記入者		電話(内線)	32-7890

1. 事業の概要

(1) 事業種別 [新規又は継続]	継続		(2) 事務事業 の名称			栄養改善推進事業			(3) 事業の 優先度		B			
(4) 総合計画での位置づけ						(6) 事業主体		市						
① 事業の区分	主要事業					(7) 予算・ 財源等 の種別	事業の性質	一般事業費(ソフト事業)						
② 施策コード	11102		(総合計画掲載ページ 49 ページ)				会計区分	一般会計						
基本目標(政策)	1ともに支えあい、安心して暮らせる社会福祉の充実(保健・福祉)						財源区分	市単独						
基本施策	1-1健康で安心して暮らせる保健福祉の充実(健康・医療)						予算科目	款 4		項 1		目 3		
施策	①健康づくりの推進						予算書上の	栄養改善推進事業費						
施策内容	2健康な身体づくりの支援						事業名称	(予算書 101 ページに掲載)						
(5) 事業期間		開始	平成	2	年	4	月から	(8) 事務分類					自治事務	
	終了			年			月まで (		力年)	根拠法令		健康増進法・食育基本法		

2. 事業の目的及び内容

(1) 対象（だれに対して・何に対して行うのか）	(3) めざす姿（意図・どのような状態になるのか）		
栄養改善が必要な市民	住民の健康保持・増進を目的とし、住民の健康問題に取り組むため、栄養の改善、その他の生活習慣の改善に関する相談や栄養指導を実施する。そのほか、健康づくり及び栄養・食生活改善に関する施策を関係者と協働して企画立案し、実施する。		
(2) 手段（事業内容・どのようなことを行うのか）	(4) 事業開始のきっかけや他市の状況など (※ 1-(8)事務分類が法定受託の場合は記入の必要なし)		
講話及び調理実習 ・栄養改善教室 生活習慣病予防の一環として、講話や調理実習を実施 ・離乳食教室 乳幼児を持つ保護者に対し、講話と調理実習を実施 ・食育教室 就学前の子を持つ保護者に対し、講話と調理実習を実施 ・個別栄養相談 栄養相談日(月1回)及び乳幼児健診時に、栄養相談を実施	結城市健康づくり推進協議会(主に保健所長及び食生活改善推進員)の推奨により、管理栄養士が配置された。当時保健所管内7市町村のうち配置がないのは結城市と大和村であった。管理栄養士配置前の事業は保健所管理栄養士に依頼して保健師が一部事業を行っていた。配置後は他市町村に倣い、また独自の事業を開拓した。		
(5) 事業をとりまく環境の変化（社会環境、市民ニーズ等）や市民・議会の要望、意見等とそれに対する対応	結城市食育推進計画・結城市健康増進計画(後期計画)に基づいた事業の展開が必要である。		

3. 事業コスト

行政評価		実績内容の評価		検討・改善		検討・改善内容を反映						
実施計画												
● 予算内訳		実績額（千円）		当初予算額（千円）		計画額・見込額（千円）						
事業内容		27 年度		28 年度		29 年度		30 年度		31 年度		
(1) 事務事業費	事業費	報償費		57		57						
		需用費		149		138						
		委託料				39						
		備品購入費				415						
	合計		206		649							
	財源	国庫支出金 (千円)										
県支出金 (千円)												
地方債 (千円)												
その他特定財源 (千円)												
一般財源 (千円)		206		649								
合計 (千円)		206		649								
補助・起債制度名												

4. 指標の検証（活動指標・成果指標）									
指標の名称				単位	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	31 年度
(1) 活動指標（実施した事業の内容）									
指標名	栄養改善教室・離乳食教室回数	目標値	回		20	20	20	20	
		実績(見込)値		18	20				
	栄養相談実施回数 (個別栄養相談・乳幼児健診個別相談)	目標値	回		60	60	60	60	
		実績(見込)値		60	60				
(2) 成果指標（事業実施によるめざす姿の達成度）									
指標名	指導実施人数	目標値	人		1,100	1,100	1,100	1,100	
		実績(見込)値		1,431	1,100	1,100	1,100	1,100	
		達成率		130.1 %	100.0 %				
	メタボリックシンドローム該当者の減少	目標値	%		15	15	15	15	
		実績(見込)値		15	15	15	15	15	
		達成率		100.0 %	100.0 %				
5. 事業評価									
(1) 平成27年度の行政評価結果をうけて、平成27年度に取り組んだ改革改善点があれば記載してください。 教室実施時にアンケートを実施し、教室内容が対象者に合っているか把握に努めている。									
(2) 項目別評価									
評価項目・客観的評価				理由					
必要性	事業の必要性	A	必要性は高い	市民が健康で安心して暮らすために必要である。					
妥当性	実施主体の妥当性	A	妥当である	法的なこともあり、行政が行うべき事業である。					
	手段の妥当性	A	妥当である	現在の手段が一般的である。					
効率性	コスト効率 人員効率	A	改善の余地はない	栄養相談は増加傾向にあり、コスト、人員ともにこれ以上の削減は難しい。					
公平性	受益者の偏り	A	偏りは見られない	お知らせ版、健康カレンダー、ホームページ等で広く周知している。					
有効性	成果の向上	A	上がっている	目には見えないが、教室・相談を受けた方の満足度は高いことがアンケート等からうかがえる。					
進捗度	事業の進捗	A	順調である	教室・相談に来た市民の健康不安への一助となっている。					
(3) 総合評価 上記評価を踏まえて事業全体について評価し、問題点・課題等を指摘してください。 栄養改善事業は市民の健康増進を目的に栄養士が企画・立案して実施する事業である。現在実施している事業について、参加者等より満足との意見をもらっている。今後は健康増進計画・食育推進計画の進捗状況やKDBシステム等から市民の健康課題を把握し、課題の目標に近づけるような事業を実施する必要がある。									
(4) 対応策・提言等 この事業を今後どのように改善・改革をしていきますか？ 市民の健康課題を把握し、その目標に沿った事業を展開していく									
6. 事業の方向性判断									
評価主体		28年度以降の事業の方向性			評価理由・根拠				
(1) 記入者評価 記入者が評価を行う		改善・改革しながら継続(成果向上・コスト維持又はコスト削減, 成果維持・コスト維持又はコスト削減)			注) 記入者は「5. 事業評価」を記載するため、この欄は未記入で結構です。				
(2) 一次評価 担当課長が評価を行う		改善・改革しながら継続(成果向上・コスト維持又はコスト削減, 成果維持・コスト維持又はコスト削減)			乳幼児から高齢者までの市民が食の大切さを知り、適正な食生活を継続できるよう支援する必要がある。健康増進計画や食育推進計画に基づき市民の現状を把握しながら、事業の推進を図る。				
(3) 最終評価 企画調整会議において評価を行う					上記評価のとおり。				